

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「見た目丁寧なのに紙減量」
- 2) 「おつかいロボ」
- 3) 「高齢者住宅、多彩に」
- 4) 「母育所」
- 5) 「太陽光発電」

1) 「見た目丁寧なのに紙減量」

大阪の高島屋では、昨今のエコブームを受け、“伝統”の回転包装を見直すなど、あの手この手で紙削減の取り組みがすすんでいる。

かつて新入社員はまず、商品を紙に斜めに置き、くるくると巻いていく回転包装を学ぶ。だが、この包装の仕方は紙の無駄が多い。

そこで、「見た目の丁寧さは維持しながら紙は減量を」という考えから導入されたのが、商品に紙を被せるように包みこむ“キャラメル包装”だ。この包み方だと、前者より紙を3から4割も節約できる。

同センターではキャラメル包装専用の機械を導入した。この機械では1分に約30個も包め、作業の大幅な効率化にもつながるので、この中元商戦では本格稼働させている。

この他、商品運搬に使う、緩衝剤を紙からポリエチレン製の空気袋に変えるなどの工夫で、高島屋18店の紙使用量は01年比で25%減っている。

商品包装の減量志向がすすむ中、丁寧さに重きを置く百貨店にもこのような傾向が見られ、今後消費者にも益々エコ意識が高まる事だろう。

2) 「おつかいロボ」

自宅に居ながら、携帯電話でロボットを動かしてお買い物。北九州市小倉北区の井筒屋本店で10日、テムザック（同市）が開発した人型ロボットを遠隔操作して買い物が行われた。本館1階の帽子売り場には人だかりができた。

従来は操作者側にPHS回線や無線LANで操作する大きな装置が必要だったが、一般の携帯電話だけで可能になった。

70代の女性が、井筒屋から約2キロ離れた自宅に待機。携帯電話のボタンを押してロボットを前後左右に操縦し、テレビ電話機能を通じてやりとりして帽子を買った。

天災救助・工業用・家庭用など様々な分野で活躍するロボットを開発する会社だが、高齢化・バリアフリーの面で商施設でもこのような需要が高まりそうだ。

3) 「高齢者住宅、多彩に」

大学で講義を受けたり、契約の更新がなく、亡くなるまで住み続けられる終身契約型など多彩な高齢者向け住宅が関西に登場している。付加価値をつけて差別化し、今後も市場拡大が見込める高齢者住宅の販売増を狙っている。

神戸市灘区で今月から分譲を始めたマンション「クラブ・アンクラージュ御影」は、入居者を大阪府吹田市の関西大学文学部までシャトルバスで送迎する。講義の受講ができ、図書館などの施設を自由に使える。

大学と連携した高齢者住宅は日本で初めてで、「リタイアしても学びたい高齢者の知的好奇心を満たしたい」という。

世間を騒がせた保険制度など何かと不安な話題の多い高齢者問題だが、一方では老後の楽しみ方も随分と幅が広がってきている。これまでの高齢者住宅は「安心感が得られる」「寂しさをまぎらわす」といったイメージが強かったが、今回の例のように向上心を持ち続けながら老後を楽しめるというのはとても魅力的だと思う。

これからもさらにいろんなサービスをウリに新しい高齢者住宅が生まれるだろう。

そして、一部の人だけでなく、若い人よりも不安の多いお年寄り全てが安心して暮らせる社会を切望する。

4) 「母育所」

大阪市西区のNPO法人「たまごママネット」が、母親の育児力を育てるために8月から東大阪市の小阪産病院に開設する「母育所」の受講者を募集している。

初回の8月3日から12月14日まで9回にわたり、子供と親のアレルギー▽母子のコミュニケーションを深める▽おはしの使い方と製作実習▽類人猿に学ぶお産・子育てなど出産や育児に必要な知識を無料で伝授する。

育児力の低下は、核家族化で祖父母が育児を指導できなくなったことが主因とされる。子育て中の母親を支援している同院の新井理事長は、インターネットや各地での育児相談で「親になりきれない」との思いを抱く母親が多いことに気づき、「母育て」を思い立った。

昔は当たり前だった子育ての「伝授」が薄れてきて、頼る人がいない中で子供を育てている若い母親も多いと思う。病院でこのような取り組みがあれば母親の心の緊張もほぐれ、安心して子育てができるのではないか。

5) 「太陽光発電」

日本で依然浸透していない一般家庭における太陽光発電だが、経済メリットや助成金の実態が不明瞭であり理解されていないことが原因の一つにあるようだ。

設置の費用はメーカーや業者によって違う。設置場所や範囲等で選ぶのが良い。

ランニングコストは、太陽電池そのものを構成するシリコンも半永久的に稼働するといわれているが、電力の変換装置であるパワーコンディショナは 10 から 15 年が使用年数の目安とされており、こちらは交換の必要がある。現在はパワーコンディショナ交換には約 20 万円の費用がかかるが、今後普及率が上昇すれば部品のコストは下がり、15 年後の大きな負担になることは無いといわれている。

オール電化の家庭で太陽光を使用すれば、電気と都市ガス使用の家庭と比べ約 80%も光熱費を削減できる。パネルが断熱効果を発揮するので、屋根裏温度が快適になり、夏は涼しく冬は温かく過ごせる。

さらに災害時、停電した場合にも利用ができる上、余った電力を売電もできるという。

また、太陽光発電の家庭には助成金が出されている。国からの助成金は H17 年に終了したが、現在は自治体単位で行っており、地域によって金額が違う。役所等で確認できる。

今後、広がるだろう太陽光発電の一般家庭設置、一度住んでいる地域における助成金や設置メリットを調べてみるのも良いかもしれない。